

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
4月	<b>今日からはじまる</b> 1時間(読①) 教:5上p①~1 ◇吟味された言葉や表現の工夫に着目し、詩から受け取ったことをもとに、表現豊かに音読することができる。(知):(1)ク、ケ、読:(1)エ)	①「今日からはじまる」を音読する。 ②感想や表現について出し合う。 ③反復などの表現や、連ごとに描かれた世界を想像し、感じたことを踏まえて音読する。 ④学習の振り返りをする。	<b>知</b> ○比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。[知・技(1)ク] <b>読</b> ○文章を音読したり朗読したりすることができる。[知・技(1)ケ] <b>学</b> ○全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。[思・判・表C(1)エ] <b>学</b> ○進んで吟味された言葉や表現の工夫に着目し、今までの学習を生かして音読しようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	<b>言葉でつながる</b> <b>しょうかいします、わたしの友達</b> 2時間(話聞②) 教:5上p14~15 ◇友達に質問しながら好きなことや得意なことなどの材料を集め、紹介スピーチを通して、親和的な関係を築くことができる。(知):(1)ア、読:(1)ア、イ、エ、(2)イ)	①学習課題と活動の進め方を確認する。 ②質問の観点を決めて、ペアになって質問し合い、好きなことや得意なことを尋ねる。 ③聞き出したことをもとにスピーチの内容を検討し、練習する。 ④各グループでスピーチをする。 ⑤スピーチを聞いて、感想を述べたりさらに聞きたいことを質問したりする。 ⑥学習の振り返りをする。	<b>知</b> ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] <b>話</b> ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。[思・判・表A(1)ア] <b>学</b> ○話の内容が明確になるように、事実と感想、意見を区別するなど、話の構成を考慮することができる。[思・判・表A(1)イ] <b>学</b> ○話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。[思・判・表A(1)エ] <b>学</b> ○進んで言葉を通して友達と積極的に関わり、学習課題に沿って話したり質問したりしようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	<b>1人物の関係を読もう</b> <b>みちくさ</b> 4時間(読④) 教:5上p16~33 ◇人物の性格や心情の変化を、人物同士の関係や情景に着目して捉え、読み取ったことをもとに、工夫して音読することができる。(知):(1)ケ、(2)イ、読:(1)オ、読:(1)イ、オ、(2)イ)	①全文を読んで、めあてを確かめ、初発の感想を交流する。 ②人物関係図を作り、人物同士の関係を捉える。 ③人物の心情の変化とその要因をつかむ。 ④人物同士の関係性について話し合い、これからの関係を想像する。 ⑤人物の心情について、自分に置きかえて考えをまとめる。 ⑥読んで理解したことをもとに、表現豊かに音読する。 ⑦学習の振り返りをする。	<b>知</b> ○文章を音読したり朗読したりすることができる。[知・技(1)ケ] <b>知</b> ○図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。[知・技(2)イ] <b>書</b> ○書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。[思・判・表B(1)オ] <b>読</b> ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。[思・判・表C(1)イ] <b>学</b> ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。[思・判・表C(1)オ] <b>学</b> ○進んで描写に着目して人物同士の関係を捉え、学習課題に沿って工夫して音読しようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	<b>季節のたより 春</b> 1時間(書①) 教:5上p36~37 ◇春の景色や様子を表す言葉、文語の語調に興味をもち、春を感じた瞬間を俳句にすることができる。(知):(3)ア、書:(1)カ、(2)イ)	①教科書の写真を見て、めあてを確かめる。 ②思い出した春の景色を発表する。 ③思い出した春の景色をもとに俳句を作る。 ④作った俳句を鑑賞する。	<b>知</b> ○近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。[知・技(3)ア] <b>書</b> ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。[思・判・表B(1)カ] <b>学</b> ○進んで季節の言葉や言葉の響きやリズムに親しみ、今までの学習を生かして、俳句を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	<b>言葉のきまり 1</b> <b>文の構造</b> 1時間(知技①) 教:5上p38~39 ◇主語と述語との関係に着目して、文の構造を理解することができる。(知):(1)カ)	①教科書の例文をもとに主語と述語の組み合わせや構造について考える。 ②設問に取り組む。 ③それぞれの文の構造に合わせた文を作る。	<b>知</b> ○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係について理解することができる。[知・技(1)カ] <b>学</b> ○進んで文の中での語句の係り方について理解し、今までの学習を生かして、文の構造を考えようとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
4月	<p>言葉のいずみ 1 <b>和語・漢語・外来語</b> 1時間(知技①) 教:5上p40～42</p> <p>◇和語・漢語・外来語の由来を知り、それぞれの違いや使ったときの印象を確かめることができる。〔知:(1)オ、(3)ウ〕</p>	<p>①和語・漢語・外来語それぞれの解説を読み、由来などを知る。 ②和語・漢語・外来語の違いについて考える。 ③設問に取り組み、意味や感じ方を確かめる。</p>	<p><b>知</b> ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。〔知・技(1)オ〕 ○語句の由来などに関心をもつとともに、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解することができる。〔知・技(3)ウ〕</p> <p><b>学</b> ○進んで和語・漢語・外来語の由来に興味をもち、今までの学習を生かして、適切に使用しようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>
	<p>4年生で習った漢字① <b>言葉をつないで文を作ろう</b> 1時間(書①) 教:5上p43</p> <p>◇四年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。〔知:(1)エ、書:(1)オ〕</p>	<p>①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、記述の適切さや漢字が正しく使われているかを確かめ合う。</p>	<p><b>知</b> ○当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。〔知・技(1)エ〕</p> <p><b>書</b> ○書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。〔思・判・表B(1)オ〕</p> <p><b>学</b> ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとしている。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>
5月	<p>調べよう まとめよう <b>「年鑑」を使って調べよう</b> 2時間(知技①読①) 教:5上p44～45</p> <p>◇年鑑の使い方を知り、図表などから目的に応じて必要な情報を見つけ、情報と情報と関係付けて考えることができる。〔知:(3)オ、読:(1)ウ、(2)ウ〕</p>	<p>①年鑑を使った調べ方を知る。 ②情報を整理し、原因と結果など情報と情報とを関連付けて、比較・推論する。 ③学習の振り返りし、他教科や生活場面などの年鑑の活用場面について意見を出し合う。</p>	<p><b>知</b> ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。〔知・技(3)オ〕</p> <p><b>読</b> ○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる。〔思・判・表C(1)ウ〕</p> <p><b>学</b> ○進んで年鑑を使い、学習課題に沿って読み取ったことをもとに比較・推論しようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>
	<p>2 要旨をとらえて読もう <b>東京スカイツリーのひみつ</b> 5時間(読⑤) 教:5上p46～57</p> <p>◇文章全体から要旨を捉えるために、事例や図などに着目しながら、論の進め方や筆者の意見と事実との関係を押さえることができる。〔知:(1)カ、(2)イ、読:(1)エ、ウ〕</p>	<p>①題名から「ひみつ」を予想する。 ②全文を読み、文章構成を捉え、筆者の主張を一文でまとめる。 ③筆者の主張と事例との関係を読む。 ④事例の順序の効果を考え、論の進め方に着目する。 ⑤文章の組み立てを図にまとめる。 ⑥文章全体の要旨をまとめ、感想を伝え合う。</p>	<p><b>知</b> ○話や文章の構成や展開について理解することができる。〔知・技(1)カ〕 ○図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。〔知・技(2)イ〕</p> <p><b>読</b> ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。〔思・判・表C(1)ア〕 ○目的に応じて、必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。〔思・判・表C(1)ウ〕</p> <p><b>学</b> ○進んで筆者の論の進め方について考え、今までの学習を生かして要旨をまとめようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
5月	言葉をおくろう <b>手紙の書き方</b> 3時間(書③) 教：5上p58～59  ◇あらたまった手紙を書くための形式を知り、全体の構成を考えて手紙を書くことができる。 (知：(1)ア、イ、キ、(書)：(1)イ、オ)	①教科書を読み、手紙を書くことへの関心を高める。 ②用件と相手を決め、書く事柄を表に整理する。 ③表をもとに下書きをして、「時候の挨拶」を考える。 ④推敲してから手紙を清書して、仕上げる。	<b>知</b> ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くことができる。 [知・技(1)ア] ○話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができる。[知・技(1)イ] ○日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。[知・技(1)キ] <b>書</b> ○筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。 [思・判・表B(1)イ] ○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。 [思・判・表B(1)オ] <b>学</b> ○進んであらたまった手紙を書くときの形式を確かめ、学習課題に沿って手紙を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]
6月	<b>3 インタビューをしよう</b> <b>働く人にインタビュー</b> 8時間(話聞⑧) 教：5上p60～63  ◇働くことについてインタビューをし、捉えた内容をもとに自分の考えをまとめることができる。(知：(1)キ、(2)イ、(話)：(1)ア、エ、(2)イ)	①インタビューの課題を見つけ、共有する。 ②学習課題やめあてを確かめ、見通しをもつ。 ③話し手の考えや思いを引き出すような、話題や質問を考える。 ④友達を相手にインタビューの練習をして、聞くための留意点を確かめる。 ⑤働く人にインタビューをして、分かったことをメモする。 ⑥メモをもとにインタビューの内容を発表して、気付いたことを伝え合う。 ⑦学習の振り返りを行い、インタビューのポイントとしてまとめる。	<b>知</b> ○日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。[知・技(1)キ] ○図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。[知・技(2)イ] <b>話</b> ○集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。[思・判・表A(1)ア] ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめることができる。[思・判・表A(1)エ] <b>学</b> ○進んで知りたいことについて考えて質問内容をまとめ、学習課題に沿ってインタビューをしようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	言葉のいずみ2 <b>複合語</b> 1時間(知技①) 教：5上p64～65  ◇複合語について、その組み合わせ方や特徴を理解することができる。(知：(1)オ)	①教科書を読み、複合語のでき方や組み合わせ方を確かめる。 ②和語・漢語・外来語の組み合わせで複合を分類する。 ③長い複合語や略語、もとの言葉と音や高さが変わる複合語について確かめる。 ④教科書や身の回りから複合語を見つけ、その種類や特徴を調べる。	<b>知</b> ○語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。[知・技(1)オ] <b>学</b> ○進んで語句の構成を理解し、今までの学習を生かして、複合語を適切に使用とする。[学びに向かう力、人間性等]
	原因と結果の関係を見いだそう <b>さまざまな情報を結び付けて考えよう</b> 2時間(知技①話聞①) 教：5上p66～68  ◇原因と結果の関係を理解し、情報と情報との関係について考えを伝え合うことができる。 (知：(2)ア、(話)：(1)オ)	①原因と結果の関係を知り、身近な生活から原因と結果の関係が成り立つものを見つけて出し合う。 ②図表とグラフの情報を結び付けて因果関係を考え、グラフ①～④に当てはまる商品とその理由を説明し合う。 ③身近な生活の中で起こっていることを出し合い、その原因となる事例(理由や根拠)を予想して挙げる。 ④説得力のある伝え方について考え、伝え合う。 ⑤学習の振り返りをする。	<b>知</b> ○原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。[知・技(2)ア] <b>話</b> ○互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。[思・判・表A(1)オ] <b>学</b> ○進んで原因と結果の関係を捉え、学習課題に沿って考えをまとめようとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
6月	<p>4年生で習った漢字②</p> <p><b>言葉をつないで文を作ろう</b></p> <p>1時間(書①)</p> <p>教：5上p69</p> <p>◇4年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。(知：(1)エ、書：(1)オ)</p>	<p>①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。</p> <p>②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。</p> <p>③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。</p> <p>④友達と読み合い、記述の適切さや漢字が正しく使われているかを確かめ合う。</p>	<p><b>知</b> ○当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ]</p> <p><b>書</b> ○書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。[思・判・表B(1)オ]</p> <p><b>学</b> ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p><b>季節のたより 夏</b></p> <p>1時間(書①)</p> <p>教：5上p70～71</p> <p>◇夏の景色や様子を表す言葉、文語の語調に興味をもち、夏を感じた瞬間を俳句にすることができる。(知：(3)エ、書：(1)カ、(2)イ)</p>	<p>①教科書の写真を見て、めあてを確かめる。</p> <p>②思い出した夏の景色を発表する。</p> <p>③思い出した夏の景色をもとに俳句を作る。</p> <p>④作った俳句を鑑賞する。</p>	<p><b>知</b> ○近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。[知・技(3)ア]</p> <p><b>書</b> ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。[思・判・表B(1)カ]</p> <p><b>学</b> ○進んで言葉の響きやリズムに親しみ、今までの学習を生かして、俳句を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>言葉のきまり2</p> <p><b>敬語</b></p> <p>1時間(知技①)</p> <p>教：5上p72～73</p> <p>◇日常よく使われる敬語を理解し、状況や相手に合わせた使い方に慣れることができる。(知：(1)キ)</p>	<p>①会話を対比し、気付いたことを出し合う。</p> <p>②敬語の意味や種類、場面による使い分けについて捉える。</p> <p>③解説文をもとに「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」のそれぞれの使い方を捉える。</p> <p>④設問に取り組んだり、相手や場面を想定して表現し合ったりする。</p>	<p><b>知</b> ○日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。[知・技(1)キ]</p> <p><b>学</b> ○進んで敬語の種類や働きを理解し、これまでの経験を生かして、適切に使うとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>想像を広げよう</p> <p><b>人物を生き生きとえがき出そう</b></p> <p>8時間(書⑧)</p> <p>教：5上p74～77</p> <p>◇文章から想像したことをもとに、人物像や場面の様子について表現を工夫して、脚本形式で書くことができる。(知：(1)カ、ケ、書：(1)ウ、カ)</p>	<p>①脚本の特徴を知り、学習のめあてや課題、進め方を確かめる。</p> <p>②脚本の特徴や書き方を捉える。</p> <p>③「ごんぎつね」の他の場面や、「みちくさ」から好きな場面を選び、行動や会話を想像しながら、ト書きやせりふを書き込む。</p> <p>④教科書の例を参考に、脚本を書く。</p> <p>⑤書いたものを読み返し、表現を確かめる。</p> <p>⑥友達と朗読し合い、感想や表現の良いところを伝え合う。</p> <p>⑦学習の振り返りをする。</p>	<p><b>知</b> ○話や文章の構成や展開、話の種類とその特徴について理解することができる。[知・技(1)カ]</p> <p><b>書</b> ○文章を音読したり朗読したりすることができる。[知・技(1)ケ]</p> <p>○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりし、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。[思・判・表B(1)ウ]</p> <p>○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。[思・判・表B(1)カ]</p> <p><b>学</b> ○進んで場面の様子を想像し、学習課題に沿って脚本を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
7月	<p><b>漢字の広場 1</b></p> <p>1時間(知技①)</p> <p>教：5上p78</p> <p>◇5年生に配当されている漢字を読み書きし、文中の使い方を理解することができる。(知：(1)エ)</p>	<p>①傍線の言葉に注意して、教科書の例文を読む。</p> <p>②新出漢字の意味を確かめ、書く練習をする。</p> <p>③漢字や文の間違いを正す。</p>	<p><b>知</b> ○第5学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。[知・技(1)エ]</p> <p><b>学</b> ○進んで5年生に配当されている漢字を読み、今までの学習を生かして、文中で使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
7月	読書に親しもう 物語の人物が答えます 注文の多い料理店 4時間(知技②読②) 教：5上p79～99 ◇表現の効果を味わいながら、登場人物の人物像に着目して作品全体を想像して読み、感想を共有することで、読むことの楽しさを実感することができる。(知：(3)オ、読：(1)エ、オ、カ、(2)イ)	①「注文の多い料理店」を読み、初発の感想を出し合う。 ②教科書を読み、活動の進め方を確かめる。 ③「物語の人物が答えます」を行い、人物の言動や心情の変化の理由を、叙述に即して説明する。 ④テーマを決めて選んだ本を読み、紹介カードに書く。 ⑤書いたカードを紹介し合う。	知 ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。[知・技(3)オ] 読 ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。[思・判・表C(1)エ] ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。[思・判・表C(1)オ] ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。[思・判・表C(1)カ] 学 ○進んで読書活動に親しみ、学習課題に沿って登場人物の人物像を読もうとする。[学びに向かう力、人間性等]
9月	詩を味わおう レモン し 2時間(読②) 教：5上p100～103 ◇表現の工夫を味わって想像したり、作者の思いを感じ取ったりしながら詩を読み、感想を伝え合うことで考えを広げることができる。(知：(1)ク、ケ、読：(1)エ、カ、(2)イ)	①「レモン」を音読し、感じたことを出し合う。 ②どこでそう感じたのか話し合い、感じたことが伝わるように音読する。 ③「し」を音読し、分かったことや感じたことを伝え合う。 ④題名「し」について自分の考えをもつ。 ⑤叙述をもとに友達と話し合い、考えを共有する。	知 ○比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。[知・技(1)ク] ○文章を音読したり朗読したりすることができる。[知・技(1)ケ] 読 ○物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。[思・判・表C(1)エ] ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。[思・判・表C(1)カ] 学 ○進んで詩の世界や作者の思いを捉え、進んで詩を味わおうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	漢字の広場2 1時間(知技①) 教：5上p104 ◇五年生に配当されている漢字を読み書きし、文中の使い方を理解することができる。(知：(1)エ)	①傍線の言葉に注意して、教科書の例文を読む。 ②新出漢字の意味を確かめ、書く練習をする。 ③漢字や文の間違いを正す。	知 ○第5学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。[知・技(1)エ] 学 ○進んで5年生に配当されている漢字を読み、今までの学習を生かして、文中で使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	4年生で習った漢字③ 言葉をつないで文を作ろう 1時間(書①) 教：5上p105 ◇四年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。(知：(1)エ、書：(1)オ)	①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、記述の適切さや漢字が正しく使われているかを確かめ合う。	知 ○当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ] 書 ○書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。[思・判・表B(1)オ] 学 ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
9月	<b>4 自分の意見をもって読もう</b> <b>わたしたちとメディア</b> 5時間(読⑤) 教：5上p106～119 ◇筆者の意見とそれを支える根拠となる事例や論の進め方を捉え、メディアとの関わりについて、自分の考えを広げることができる。(知：(1)ア、カ、語：(1)ア、ウ、オ、九、(2)ア)	①題名からメディアとの関わりについて考える。 ②全文の構成を確かめ、事例を押さえる。 ③三つのまとまりについて観点を整理しながら読む。 ④観点ごとにまとめた内容を共有し、内容を捉える。 ⑤後続教材を読み、筆者の意見に対する自分の考えをもつ。 ⑥メディアの上手な使い手になることについて、友達と考えを共有し、さらに自分の考えを広げる。	<b>知</b> ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] <b>読</b> ○話や文章の構成や展開について理解することができる。[知・技(1)カ] ○文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。[思・判・表C(1)ア] ○論の進め方について考えることができる。[思・判・表C(1)ウ] ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。[思・判・表C(1)オ] ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。[思・判・表C(1)カ] <b>学</b> ○進んで筆者の意見と事実との関係をもとに説得力について考え、学習課題に沿って自分の考えを広げようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	言葉の文化を体験しよう <b>宇治拾遺物語</b> 3時間(知技③) 教：5上p120～125 ◇古文や解説文などを読み、言葉の響きやリズムを味わったり、昔の人のものの見方や感じ方に関心をもったりすることができる。(知：(3)ア、イ)	①小野篁の話の原文をくり返し音読し、現代語訳から内容の大体をつかむ。 ②「古文の世界にふれる」を読み、昔の人のものの見方や感じ方について、現代の自分たちと比べて考える。 ③「雀報恩の事」の原文をくり返し音読し、現代語訳をもとに、「舌切りすずめ」との内容の違いについて交流する。 ④宇治拾遺物語や今昔物語の現代語訳、また、それらを底本にした絵本などから好きな作品を選び、読んで紹介し合う。	<b>知</b> ○親しみやすい古文を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。[知・技(3)ア] <b>学</b> ○古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。[知・技(3)イ] ○古文や解説文などを通して、言葉の響きやリズムに親しみ、進んで昔の人のものの見方や感じ方に関心をもとうとする。[学びに向かう力、人間性等]
10月	言葉を受け止めよう <b>親しみを表現しよう</b> 2時間(話聞②) 教：5上p126～127 ◇互いの考えを明らかにして話し合い、よりよい人間関係の築き方について考えを広げることができる。(知：(1)ア、語：(1)エ、オ)	①学習課題と活動の進め方を確認する。 ②学校生活のなかで友達と親しみを感じ合える場面を書き出す。 ③グループ内で発表し、気付いたことや感じたことを交流する。 ④よりよい人間関係の築き方について、自分の考えをまとめて話し合う。 ⑤学習の振り返りをする。	<b>知</b> ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] <b>話</b> ○話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。[思・判・表A(1)エ] <b>学</b> ○互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。[思・判・表A(1)オ] ○進んで友達と「親しみ」について話し合い、学習課題に沿って、よりよい人間関係の築き方について考えようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	言葉のいずみ3 <b>方言と共通語</b> 2時間(知技②) 教：5上p128～130 ◇方言と共通語の違いを理解することができる。(知：(3)ウ)	①方言とはどのようなものか知る。 ②教科書の解説を読み、共通語の特徴や由来について知る。 ③方言のアクセントの違いや、方言の広がり方について確かめる。 ④方言と共通語の特徴や、それぞれのよさに気付き、考えを交流する。 ⑤設問に取り組む。 ⑥方言を調べて出し合う。	<b>知</b> ○共通語と方言との違いを理解することができる。[知・技(3)ウ] <b>学</b> ○進んで方言と共通語の違いを理解し、これまでの学習や経験を生かして、適切に使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
10月	<b>紙風船</b> 1時間(書①) 教：5下p①～1 ◇吟味された言葉や表現の工夫に着目して、詩に描かれた作者のメッセージを受け取り、感じたことが伝わるよう、表現豊かに音読することができる。(知：(1)ク、 <b>言</b> ：(1)エ)	①「紙風船」を音読し、感想や表現の工夫について出し合う。 ②比喩や倒置、繰り返しなどの表現と、描かれた詩の世界を結び付けて想像し、自分と重ねて感じたことをふまえて朗読する。 ③学習の振り返りをする。	<b>知</b> ○比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。[知・技(1)ク] ○文章を音読したり朗読したりすることができる。[知・技(1)ケ] <b>読</b> ○全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。[思・判・表C(1)エ] <b>学</b> ○進んで詩に描かれた作者のメッセージについて考え、今までの学習を生かして表現豊かに音読しようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	言葉から想像しよう <b>「入れかえ文」を作って楽しもう</b> 2時間(知技①話聞①) 教：5下p6～8 ◇入れかえ文の意味が分かるように、想像を広げて補うことができる。(知：(1)オ、カ、 <b>語</b> ：(1)エ)	①p6を見て、仮定の副詞「もし」を用いた条件表現の複文を理解する。 ②作った複文のカードをペアの友達と入れかえ、論理のつながりについて想像したことをメモに書き留める。 ③入れかえ文を提示し、補った考えを発表したりアイデアを出し合ったりする。 ④p8の吹き出しを参考に複文を作り、入れかえ文と、それに対して補った考えを出し合う。 ⑤学習の振り返りをする。	<b>知</b> ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。[知・技(1)オ] ○文と文との接続の関係について理解することができる。[知・技(1)カ] <b>話</b> ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。[思・判・表A(1)エ] <b>学</b> ○進んで入れかえ文の論理のつながりをイメージで補い、学習課題に沿って説明しようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	<b>1 報道文を読み、考えを深めよう</b> <b>新聞の情報を読み取ろう</b> 5時間(読⑤) 教：5下p9～15 ◇新聞記事と図表・写真とを関連させながら読み比べ、書き手の意図を捉えたり、新聞を活用して自分の考えを広げたりすることができる。(知：(1)カ、 <b>読</b> ：(1)ウ、オ、(2)ア、ウ)	①新聞を読んだ経験や、知っていることなどを出し合う。 ②めあてを確かめ、新聞の特徴をつかむ。 ③新聞の構成や読むポイントを確かめる。 ④記事と図表・写真とを関連付けながら新聞記事を読み比べ、それぞれの違いや書き手の意図を捉える。 ⑤新聞などから関心をもったことを調べる。 ⑥記事をもとに、スクラップシートにまとめる。 ⑦学習の振り返りをする。	<b>知</b> ○話や文章の種類とその特徴について理解することができる。[知・技(1)カ] <b>読</b> ○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。[思・判・表C(1)ウ] ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。[思・判・表C(1)オ] <b>学</b> ○進んで新聞の意図を捉え、学習課題に沿って自分の考えをもとうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	<b>季節のたより 秋</b> 1時間(書①) 教：5下p16～17 ◇秋の景色や様子を表す言葉、文語の語調に興味をもち、秋を感じた瞬間を俳句にすることができる。(知：(3)ア、 <b>書</b> ：(1)カ、(2)イ)	①教科書の写真を見たり俳句読んだりして、秋の景色や様子を表す言葉、文語調の俳句について知る。(児童の実態に応じて、季節の唱歌等を紹介しても良い) ②秋の景色を表す言葉を歳時記から探し、その言葉を使って、秋を感じた瞬間を俳句にする。	<b>知</b> ○近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。[知・技(3)ア] <b>書</b> ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。[思・判・表B(1)カ] <b>学</b> ○進んで言葉の響きやリズムに親しみ、今までの学習を生かして、俳句を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
10月	<p>文章の書き方・まとめ方  <b>文章の構成を知らう</b>            2時間(書②)            教：5下p18～19</p> <p>◇身近な話題に対する自分の考えが読み手に分かりやすく伝わるように、構成や展開を考えて意見文を書くことができる。(知：(1)カ、書：(1)イ、カ)</p>	<p>①例示された三つの文章を読み比べ、考えを支える理由や根拠(事例)、筆者の意見がどのように構成されているか、読み手に考えが明確に伝わるのはどれかなど、気付いたことを出し合う。</p> <p>②それぞれの文章の特徴を捉え、三つの型(頭括型・尾括型・双括型)のどれに当てはまるか、考えを出し合う。</p> <p>③身近な話題から、述べたい考えや意見を決める。</p> <p>④自分の考えを支えるための理由や、事例となる出来事や根拠を考え、ノートに書き出す。</p> <p>⑤三つの型のいずれかから、自分の意見を伝えるために適している型を選び、文章全体の構成や展開を考えながら意見文を書く。</p> <p>⑥主張を最初に提示することで読み手に伝わりやすくなるか、また、身近な話題から入り、読み手に共感させてから主張する方が伝わりやすくなるのかなど、文章構成による説得力の違いについて感想を伝え合う。</p> <p>⑦学習の振り返りをする。</p>	<p><b>知</b> ○話や文章の構成や展開について理解することができる。[知・技(1)カ]</p> <p><b>書</b> ○筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。[思・判・表B(1)イ]</p> <p>○文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合うことができる。[思・判・表B(1)カ]</p> <p><b>学</b> ○進んで文章構成や論の展開を考え、学習課題に沿って意見文を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
11月	<p><b>2 意見文を書こう どう考える? この投書</b>            8時間(書⑧)            教：5下p20～25</p> <p>◇自分の意見が読み手に明確に伝わるよう、構成や書き表し方を工夫して書くことができる。(知：(1)カ、書：(1)イ、ウ、オ、(2)ア)</p>	<p>①学習課題とめあてを確かめ、見直しをもつ。</p> <p>②例示された二つの投書を読み、書き手の意図が分かるところや納得するところに線を引いたり、文章全体を要約したりする。</p> <p>③投書の書き手の意図を捉え、読んで納得したことを、理由とともに話し合う。</p> <p>④投書に対する自分の意見や、それを支える理由や根拠となる出来事などを付箋に書き、構成表に貼って整理する。</p> <p>⑤構成表をもとに論の展開を考え、意見文を書く。</p> <p>⑥書いた文章を推敲する。</p> <p>⑦友達と読み合い、感想や説得の工夫について伝え合う。</p> <p>⑧学習の振り返りをする。</p>	<p><b>知</b> ○話や文章の構成や展開について理解することができる。[知・技(1)カ]</p> <p><b>書</b> ○筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。[思・判・表B(1)イ]</p> <p>○事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。[思・判・表B(1)ウ]</p> <p>○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。[思・判・表B(1)オ]</p> <p>○文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。[思・判・表B(1)カ]</p> <p><b>学</b> ○進んで文章構成や書き表し方を工夫し、学習の見直しをもって意見文を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p><b>3 自分の考えを提案しよう 学校を百倍すてきにしよう</b>            6時間(話聞⑥)            教：5下p26～31</p> <p>◇提案内容が聞き手によく伝わるよう、話の内容や構成を考え、工夫して話すことができる。(知：(1)イ、(2)イ、話：(1)ア、イ、ウ、(2)ア)</p>	<p>①学習課題とめあてを確かめ、見直しをもつ。</p> <p>②イメージマップを使って、学校を百倍すてきにするためのアイデアを広げる。</p> <p>③イメージマップの中から、良いと思うアイデアを選び、その理由を書き出す。</p> <p>④モデルのメモを参考に、内容や話す順序を考え、スピーチメモを作る。</p> <p>⑤発表会を開いてスピーチを行い、質問したり感想を伝え合ったりする。</p> <p>⑥内容と発表の仕方などについて、学習の振り返りをする。</p>	<p><b>知</b> ○話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができる。[知・技(1)イ]</p> <p>○図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。[知・技(2)イ]</p> <p><b>話</b> ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。[思・判・表A(1)ア]</p> <p>○話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。[思・判・表A(1)イ]</p> <p>○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。[思・判・表A(1)ウ]</p> <p><b>学</b> ○進んで話の内容や構成を考え、学習の見直しをもって提案内容を話そうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>



月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
11月	<b>漢字の広場 1</b> 1時間（知技①） 教：5下p32 ◇5年生に配当されている漢字を読み書きし、文中の使い方を理解することができる。（知：(1)エ）	①傍線の言葉に注意して、教科書の例文を読む。 ②新出漢字の意味を確かめ、書く練習をする。 ③漢字や文の間違いを正す。	<b>知</b> ○第5学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。[知・技(1)エ] <b>学</b> ○進んで5年生に配当されている漢字を読み、今までの学習を生かして、文中で使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	4年生で習った漢字① <b>言葉をつないで文を作ろう</b> 1時間（書①） 教：5下p33 ◇4年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。（知：(1)エ、書：(1)オ）	①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、記述の適切さや漢字が正しく使われているかを確かめ合う。	<b>知</b> ○当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ] <b>書</b> ○書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。[思・判・表B(1)オ] <b>学</b> ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]
12月	<b>4 生き方を読もう</b> <b>勇気の花がひらくときーやなせたかしとアンパンマンの物語ー</b> 4時間（読④） 教：5下p34～47 ◇描かれている人物像や生き方、作品に込めた作者の思いを読み、自分のこれからの生き方を考えることができる。（知：(1)ケ、読：(1)エ、オ、カ、(2)イ）	①全文を読み、めあてを確かめる。 ②初発の感想を交流する。 ③本文をもとに出来事とその時人物が考えたことを表にまとめ、人物像を捉える。 ④作品に込められた思いを被伝者の人物像と関連させて捉える。 ⑤題名を手がかりに、作品の全体像を捉える。 ⑥自分と重ね合わせて、自分の生き方について考え、考えたことや感想を共有する。 ⑦学習の振り返りをする。	<b>知</b> ○文章を音読したり朗読したりすることができる。[知・技(1)ケ] <b>読</b> ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。[思・判・表C(1)エ] ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。[思・判・表C(1)オ] ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。[思・判・表C(1)カ] <b>学</b> ○進んで伝記をもとに自分の生き方を考え、学習課題に沿って読み進めようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	<b>豊かに表現しよう</b> <b>俳句・短歌を作ろう</b> 6時間（書⑥） 教：5下p48～51 ◇身の回りから見つけたことをもとに、言葉を吟味して俳句や短歌を作り、表現の工夫による効果を確認することができる。（知：(1)オ、ク、書：(1)ア、カ、(2)イ）	①学習課題と手順を確かめる。 ②俳句の音数や季語について知る。 ③教科書P49の作品例の空欄に言葉を当てはめ、思い浮かべた情景について話し合う。 ④短歌の特徴や音数を知り、リズムを確かめたり、情景を思い浮かべたりする。 ⑤教科書P51の作品例の空欄に当てはまる言葉を考え、話し合う。 ⑥生活の中で気付いたことや驚いたことなどを思い出し、短い文章に書き留める。 ⑦書いた短い文章をもとに言葉を組み合わせ、音数に気を付けて、俳句や短歌を作る。 ⑧友達と読み合い、表現を工夫したところを説明したり、感想や良いところを伝え合ったりする。 ⑨学習の振り返りをする。	<b>知</b> ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。[知・技(1)オ] ○比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。[知・技(1)ク] <b>書</b> ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表B(1)ア] ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。[思・判・表B(1)カ] <b>学</b> ○進んで言葉を吟味して表現を工夫し、学習課題に沿って俳句や短歌を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
12月	<p>言葉のきまり 1  <b>動作の状態や意味をくわしくする言葉</b>            1時間 (知技①)            教：5下 p52～53</p> <p>◇陳述（呼応）の副詞や補助動詞について、語句と語句との関係を理解し、適切に使うことができる。(知：(1)カ)</p>	<p>①p.52の例文をもとに、陳述（呼応）の副詞について知る。            ②課題に取り組み、適切な語句を入れたり、陳述（呼応）の副詞を使った文を作ったりする。            ③p.53の例文を比べ、気付いたことを出し合い、補助動詞の働きを確かめる。</p>	<p><b>知</b> ○文の中での語句の係り方について理解することができる。[知・技(1)カ]  <b>学</b> ○進んで陳述（呼応）の副詞や補助動詞について理解し、今までの学習を生かして、適切に使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>読書を広げよう  <b>なぜ本を読むのか 読書の部屋</b>            1時間 (知技①)            教：5下 p54～57</p> <p>◇読書の楽しさや有効性を知り、日常的に読書に親しむことができる。(知：(3)オ)</p>	<p>①教科書本文を読み、本を読む意義について考える。            ②今まで読んだ中で、印象に残っている本を書き出す。            ③本を読んで考えが広がったことや、楽しさを実感したことなどを振り返り、発表する。            ④読書の部屋を見て、多様なもの見方や考え方にふれ、読書の良さに気付く。</p>	<p><b>知</b> ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。[知・技(3)オ]  <b>学</b> ○進んで読書の意義について考え、今までの学習を生かして読書に親しもうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
1月	<p>季節のたより 冬            1時間 (書①)            教：5下 p58～59</p> <p>◇冬の景色や様子を表す言葉、文語の語調に興味をもち、冬を感じた瞬間を俳句にすることができる。(知：(3)ア、書：(1)カ、(2)イ)</p>	<p>①教科書の写真を見たり俳句を読んだりして、冬の景色や様子を表す言葉、文語調の俳句について知る。(児童の実態に応じて、季節の唱歌等を紹介しても良い。)            ②冬の景色を表す言葉を歳時記から探し、その言葉を使って、冬を感じた瞬間を俳句にする。</p>	<p><b>知</b> ○近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。[知・技(3)ア]  <b>書</b> ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。[思・判・表B(1)カ]  <b>学</b> ○進んで言葉の響きやリズムに親しみ、今までの学習を生かして俳句を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>5論の進め方に着目して読もう  <b>「一本」から見える数え方の世界</b>            4時間 (読④)            教：5下 p60～69</p> <p>◇筆者の疑問から結論にいたるまでの論の進め方を、調査と考察の関係から捉えることができる。(知：(1)オ、(2)イ、書：(1)ア、ウ)</p>	<p>①全文を読み、めあてを確かめる。            ②知っている助数詞を、ものの形状と関連させながら出し合う。            ③筆者の疑問から結論にいたるまでの過程を考え、文章構成を捉える。            ④二つの疑問に対する事例を整理する。            ⑤挿絵と文章を関連させて読み、挿絵の効果を考える。            ⑥筆者の論の進め方や言葉に対する感覚について、考えを伝え合う。            ⑦学習の振り返りをする。</p>	<p><b>知</b> ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。[知・技(1)オ]  <b>読</b> ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。[知・技(2)イ]  <b>書</b> ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。[思・判・表C(1)ア]  <b>学</b> ○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。[思・判・表C(1)ウ]  <b>学</b> ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。[思・判・表C(1)オ]  <b>学</b> ○進んで筆者の思考過程を追い、調査と推論との関係を考えながら読もうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
1月	<p>調べて書く 言葉について調べよう 10時間(書⑩) 教：5下p70～75</p> <p>◇言葉について調べて分かったことを整理し、資料から引用したり、図表やグラフなどを用いたりしながら、伝えたいことが明確なレポートを作ることができる。(知：(1)オ、カ、書：(1)ア、エ)</p>	<p>①学習課題と進め方を確かめる。 ②言葉について疑問に思っていることを出し合い、調べるテーマを決める。 ③複数の中から適切な調べ方を決め、決めたテーマについて詳しく調べる。 ④調べて分かったことを、分類したり関係付けたりして整理し、図表やグラフで表すものを考える。 ⑤研究の動機や調べて分かったことなど、観点に沿って構成表にまとめる。 ⑥作成した資料や構成表をもとに、レポートをまとめる。 ⑦作ったレポートを友達と読み合い、構成や資料の使い方など感想を伝え合う。 ⑧学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。[知・技(1)オ] 知 ○話や文章の種類とその特徴について理解することができる。[知・技(1)カ] 書 ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表B(1)ア] 知 ○引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。[思・判・表B(1)エ] 学 ○進んで引用したり図表やグラフなどを効果的に使い、学習の見通しをもってレポートにまとめようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
2月	<p>対話して読む：物語の読み方を広げよう ゆず 2時間(読②) 教：5下p76～80</p> <p>◇つぶやくように対話して読んだり、描写をもとに書かれていない部分を想像で補って読んだりすることで、作品の読み方を広げることができる。(知：(1)オ、ケ、読：(1)イ、エ)</p>	<p>①本文を読み、「基本的な手がかり」を確かめる。 ②「つぶやき」を参考にし、対話するように問いをもちながら読む。 ③読んで分かったことや解説文をもとに、感想を伝え合う。 ④学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。[知・技(1)オ] 知 ○文章を音読したり朗読したりすることができる。[知・技(1)ケ] 読 ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。[思・判・表C(1)イ] 知 ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。[思・判・表C(1)エ] 学 ○進んで物語と対話しながら想像し、学習課題に沿って読み進めようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>4年生で習った漢字② 言葉をつないで文を作ろう 1時間(書①) 教：5下p81</p> <p>◇4年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。(知：(1)エ、書：(1)オ)</p>	<p>①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、記述の適切さや漢字が正しく使われているかを確かめ合う。</p>	<p>知 ○当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ] 書 ○書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。[思・判・表B(1)オ] 学 ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>言葉の文化を体験しよう 文語詩 やしの実 2時間(知技②) 教：5下p82～85</p> <p>◇時間の経過による言葉の変化に気付き、言葉の響きやリズムに親しむとともに、内容の大体をつかみ、昔の人のものの見方や感じ方に対する関心を深めることができる。(知：(3)ア、イ、ウ)</p>	<p>①「やしの実」を音読し、文語詩の五七調のリズムや響きを味わうとともに、現代語との言葉の違いに関心をもつ。 ②各連をイメージし、感じたことや考えたことをもとに絵で表し、交流する。 ③解説文を読み、「やしの実」の内容と関連させて作者のものの見方や感じ方を知る。</p>	<p>知 ○近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。[知・技(3)ア] 知 ○作品の内容の大体を知るを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。[知・技(3)イ] 知 ○時間の経過による言葉の変化に気付くことができる。[知・技(3)ウ] 学 ○進んで文語の調子に親しみ、言葉の響きやリズムをつかみながら音読しようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
2月	<p>言葉のいずみ1 漢字の音読みと訓読み 2時間(知技②) 教:5下p86~89</p> <p>◇複数の音読みや訓読みがある漢字や、いろいろな意味や読み方がある漢字について、理解することができる。(知:(1)ウ、(3)ウ)</p>	<p>①p.86の解説を読み、複数の音読みがある漢字があることを知り、同じ漢字の複数の音読みを使った短文を作る。</p> <p>②p.87の解説を読み、同じ音読みでも表す意味が複数あることを知り、傍線のある漢字と同じ意味で使われている熟語がどれかを考える。</p> <p>③p.88の解説を読み、複数の訓読みがある漢字があることを知り、傍線部分を適切な表記にする。</p> <p>④p.89上段の解説を読み、複数の読み方がある言葉について知る。</p> <p>⑤同訓異字について知り、適切な言葉がどれかを考える。</p>	<p><b>知</b> ○文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くことができる。[知・技(1)ウ]</p> <p>○語句の由来などに関心をもつとともに、漢字の由来、特質などについて理解することができる。[知・技(3)ウ]</p> <p><b>学</b> ○進んで漢字の音読みや訓読みについて理解し、これまでの学習を生かして、適切に漢字を使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>6描写を手がかりに読もう 大造じいさんとがん 6時間(読⑥) 教:5下p90~107</p> <p>◇人物の行動や心情描写、情景描写に着目し、人物の心情とその変化を捉えることができる。(知:(1)ク、読:(1)イ、エ、カ)</p>	<p>①全文を読み、めあてを確かめる。</p> <p>②初発の感想を交流する。</p> <p>③場面ごとに、人物の行動と心情を確かめる。</p> <p>④人物の心情の変化と、そのきっかけとなる出来事を捉える。</p> <p>⑤印象に残る描写を書き出し、その効果を考える。</p> <p>⑥描写を手がかりに、書かれていない場面を想像する。</p> <p>⑦読み取ったことをもとに、感想を伝え合う。</p> <p>⑧学習の振り返りをする。</p>	<p><b>知</b> ○比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。[知・技(1)ク]</p> <p><b>読</b> ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。[思・判・表C(1)イ]</p> <p>○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。[思・判・表C(1)エ]</p> <p>○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。[思・判・表C(1)カ]</p> <p><b>学</b> ○進んで描写に着目して、学習の見通しをもって、人物の相互関係や心情の変化を捉えて読もうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
3月	<p>7テーマを決めて討論しよう より良い考え方はどっち? 6時間(話聞⑥) 教:5下p108~115</p> <p>◇テーマに対して二つの立場に分かれ、意見やその理由を明確にしたり資料を活用したりしながら、計画的に討論をすることができる。(知:(1)オ、話:(1)ア、ウ、オ、(2)ウ)</p>	<p>①今までの話し合いで、上手くいかなかったことなどを出し合う。</p> <p>②学習のめあてと課題を確かめ、見直しをもつ。</p> <p>③討論会の役割や形態、進め方を確かめる。</p> <p>④論題について、条件を考えながら話し合い、一つ選ぶ。</p> <p>⑤立場や役割を決め、それぞれの役割で重要な点を確認する。</p> <p>⑥立論の内容を考え、立論カードと資料を作成する。</p> <p>⑦立論を発表し、討論会の準備をする。 ・賛成側と反対側は考えの根拠を整理する。 ・司会役は発言の順番や時間の計画を立てる。</p> <p>⑧役割を交代するなどしながら討論会を行う。</p> <p>⑨進め方の工夫や互いの意見の明確さなどについて話し合い、学習の振り返りをする。</p>	<p><b>知</b> ○思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。[知・技(1)オ]</p> <p><b>話</b> ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。[思・判・表A(1)ア]</p> <p>○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。[思・判・表A(1)ウ]</p> <p>○互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。[思・判・表A(1)オ]</p> <p><b>学</b> ○積極的にテーマに対する自分の立場を明確にして、学習の見直しをもって話し合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>言葉のいずみ2 日本語の文字の歴史 1時間(知技①) 教:5下p116~117</p> <p>◇仮名の由来や特質などについて理解することができる。(知:(3)ウ)</p>	<p>①p.116の解説を読み、漢字を利用した日本語の書き表し方について知る。</p> <p>②p.117上段の解説を読み、平仮名や片仮名が生まれた過程を知る。</p> <p>③p.117下段の解説を読み、漢字仮名交じり文について知り、その良さを考える。</p>	<p><b>知</b> ○語句の由来などに関心をもつとともに、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解することができる。[知・技(3)ウ]</p> <p><b>学</b> ○進んで日本語の文字の歴史について知り、これまでの経験を生かして、日本語の特質を理解しようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
3月	<b>漢字の広場 2</b> 1時間 (知技①) 教：5下p118 ◇5年生に配当されている漢字を読み書きし、文中の使い方を理解することができる。(知：(1)エ)	①傍線の言葉に注意して、教科書の例文を読む。 ②新出漢字の意味を確かめ、書く練習をする。 ③漢字や文の間違いを正す。	<b>知</b> ○第5学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。[知・技(1)エ] <b>学</b> ○進んで5年生に配当されている漢字を読み、今までの学習を生かして、文中で使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	<b>4年生で習った漢字③</b> <b>言葉をつないで文を作ろう</b> 1時間 (書①) 教：5下p119 ◇4年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。(知：(1)エ、書：(1)オ)	①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、記述の適切さや漢字が正しく使われているかを確かめ合う。	<b>知</b> ○当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ] <b>書</b> ○書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。[思・判・表B(1)オ] <b>学</b> ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	<b>これからのあなたへ</b> <b>小さな質問</b> 1時間 (読①) 教：5下p120～121 ◇描写をもとに作品の全体像を捉え、作者の思いを想像して感想をもつことで、自分の考えを広げることができる。(知：(1)ク、読：(1)カ、(2)イ)	①「小さな質問」の作品世界を想像し、感想や表現の工夫について出し合う。 ②神様とトンボのやりとりから、感じたことをふまえて音読する。 ③詩から受け取ったメッセージについて、感想を伝え合う。 ④学習の振り返りをする。	<b>知</b> ○比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。[知・技(1)ク] <b>読</b> ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。[思・判・表C(1)カ] <b>学</b> ○進んで作品のメッセージを想像しながら自分の生きる意味を自問し、学習課題に沿って読み広げようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	<b>五年生をふり返って</b> 2時間 (書②) 教：5下p122～124 ◇一年間の国語学習を振り返り、新たに気付いたことやこれから取り組みたいことを考えて書くことができる。(知：(1)ウ、書：(1)ア)	①一年間の国語学習を振り返り、学んだことやこれからも頑張っていきたいことを友達と話し合う。 ②新たに気付いたことやこれから取り組みたいと思うことをメモに書き出し、簡単な構成を考える。 ③一年間を振り返る文章を書く。 ④友達と読み合い、感想を伝え合う。 ⑤学習を振り返り、これからの学習について話し合う。	<b>知</b> ○文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くことができる。[知・技(1)ウ] <b>書</b> ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表B(1)ア] <b>学</b> ○進んで一年間で学んだことを思い出し、今までの学習を生かして文章にまとめようとする。[学びに向かう力、人間性等]